

日銀の視点

豊かな緑に囲まれた校舎。校庭から子供たちの元気な声が聞こえる。先日、鹿嶋市立豊郷小学校を訪問し、金銭教育への取り組みを参観。よく工夫された授業や活動を通じ、先生方が熱心に指導する姿や子供たちが生き生きと学ぶ様子が強く印象に残った。

県金融広報委員会(会長・県知事、事務局・日銀水戸事務所)では県、市町村、水戸財務事務所、金融機関などの関係者の協力を得て金融教育を推

日銀水戸事務所長 **鈴木 直行**

子供たちの学びを応援

進。活動の一環として県内の学校に研究校を委嘱し、金融・金銭教育の研究・実践を支援している。豊郷小は研究校の一つで、これまでの成果を披露する発表会が今般開催された。金融教育の最前線とし

分て実際にものを買って金銭を支払う経験は乏しい児童が多いという。そこで、小学1年生の国語科の授業では「おみせやさんごっこ」を舞台として用意。「安いよ」とか「おいしいよ」といった商品の値段

のサツマイモの産地。そこで同校では農業公社の方より指導を頂きつつ、サツマイモの苗植えから収穫、販売まで全児童が協力して実施。販売段階では各学年が分担し、イモの洗浄やひげ根取りで商品価値を高めつつ、

の実現に向けて努力する態度を身に付けることを目指す6年生の学級活動や②市内小中学校への発表会のライブ配信などさまざまな有意義な取り組みが行われていた。学校運営が感染症の大きな影響を受ける中で、金銭教育の視点も取り入れた素晴らしい授業や活動の研究・実践をされた学校の先生方、ご指導を頂いた

て同校の取り組みを紹介したい。

まずは、お店で使われるさまざまな言葉を習得しつつ、お店の人の工夫や努力に気付く小学1年生向けの授業。同校の近隣は商店が少なく、自

や品質などを表す語彙を活用しつつ、お店の人が工夫や努力を重ねて商いをしていることも学ぶ授業となっていた。

二つ目の取り組みは、地域とのつながりを大切にしたい学習活動。鹿行地区は全国有数

「かくてくれてありがとう」という1年生の手書きメッセージカード付きのサツマイモが飛びよりに売れたことは想像に難くない。

このほかにも、①自分の長所・短所を見つけ、将来の夢

の達成に向けて努力する態度を身に付けることを目指す6年生の学級活動や②市内小中学校への発表会のライブ配信などさまざまな有意義な取り組みが行われていた。学校運営が感染症の大きな影響を受ける中で、金銭教育の視点も取り入れた素晴らしい授業や活動の研究・実践をされた学校の先生方、ご指導を頂いた

県鹿行教育事務所、鹿嶋市教育委員会、金融広報アドバイザーの方々、改めて感謝を申し上げます。今後も微力ながら、社会の中で生きる力を育む金融教育への取り組みを応援したい。(次回は12月12日掲載)